

文芸

俳句

この道は抜けられますか犬ふぐり

池田 逸子

米と研ぐ事に始まる日永かな

伊藤 敬子

新緑の濡れて艶めく昼の雨

伊藤 定男

神輿渡御父の目潤む息子の勇姿

今関満喜子

一本の供養のつつじ万と咲く

魚地 照子

ゆく春や田に引き入るる水の音

江森 悦子

新緑の山路横切る親子様

大谷 武彦

新緑に友逝く雨の烈しけり

川島 孝夫

新緑の山掴まんと大背伸び

川島 通則

鯉のぼり見えぬ少子化風止まず

桑名 大行

城跡の極相林の苔葉かな

向後 寛

館林乙女心に泉湧く

小松 藤男

鳥の巢の懸かる木立や道祖神

佐瀬 輝夫

霊園の藤棚に色染みにけり

宍倉 道子

祭笛農夫の太き指動く

玉虫 栗扇

雨含み新緑の木々光くる

土屋美枝子

紅水晶の念珠かけに春惜しむ

戸村 静華

車窓から三春の里は春爛漫

西崎さち子

薄化粧田植文度で泥の中

長谷川 正子

藤の花どの坂道もたけりけり

渡部 和秋

雨上りの吾が家の庭にきらめくは

吉岡 信子

朝日に照らふ萌えそむ若葉

池田 春江

ボランテアは久びさなるも来てみれば

池田 春江

介護士吾と喜び迎ふ

池田 春江

花の美術館に翡翠曼どば見むときぬ

池田 春江

名に違ふなく美しかりき

池田 春江

車椅子押すが巧みと暖めてくぬ

田崎 尚実

ほどなく夫は逝きてしまへり

青木 秀子

水張田にコンビニの灯の照り映えて

青木 秀子

夜の水面に光りさ揺らぐ

押尾 輝子

立埋め花咲き盛るネモフィラ

花の空色天に溶け入る

鈴木まさ子

み祖らの植えてくれた杉の木が

名木山武杉と呼ばれ久しむ

鈴木まさ子

男の孫の初出勤の帰り待つ

芹川 初子

夕餉の車と家族園み

平山 芳子

姑使ひ大姑使ぬし裁ち台に

笠跡あまた残りぬるなり

西山満里子

雪柳の花びら軽く風に乗る

八角 三枝

粉雪のやうに空を舞ひゆく

みどり優しく萌え初てきぬ

佐瀬 初音

種子の皮黒きと先につけしまま

選者 斎藤つね子

蘆の柔葉の細く萌えきつ

見晴るかす田の面の涯に声上げて

呼べば忘えるこき母の声

越川 義則

萌え競ふ緑むんむん迫る山

登れば風の光る展望

農のみの味わうことか仕事終え

鋤鎌洗う心よきこと

越川 福子

好

土屋

好

好

好

こうほう博物館 15

三万年前の石斧

五月号では縄文時代の石斧を紹介しましたが、今回は旧石器時代の石斧の話をしましょう。この石斧は長倉地区の鍛冶屋谷遺跡から、平成十五年の発掘調査で出土したものです。出土したときは地表から一メートル以上も深い赤土の中から、黒曜石製の刃物と一緒にであったので、旧石器時代のものであることは間違いないです。この石斧は硬い砂岩を用い、両面を打ち割って三角形の形を作って、仕上げに刃先がアヒルの口ばしのように鋭くよく磨かれています。このように刃先のみを磨いた石斧を局部磨製石斧と呼べ、日本の旧石器時代の石斧の特徴となっていて、前回紹介した縄文時代の全体を磨いた石斧と異なっています。そしてこの局部磨製石斧は、



▲石斧

日本の旧石器時代でも最も古い時期の今から三万年前に多く作られ、県内でも富里市や市原市、近くでは山武市松尾町の四つ塚で多く出土しています。このようにもう三万年前には、多くの人々がすでに生活していたことが、この石器によって知ることがができます。最後にこの石斧はどれもあまり刃が欠けていないところから、木を切るのに使われたのではなく、動物を狩るのに使われたのではないかと推測されています。